

## 高周波48Vシリーズ かる楽バイブレータ 取扱説明書



CSV50OB・ADV50SOB

★お買い上げありがとうございます。ご使用になる前に必ず  
この取扱説明書をお読み下さい。

## エクセン株式会社

## ☆ 安全情報

- ☆ この製品は、コンクリートを締め固める為のバイブレータです。  
コンクリートを締め固める目的以外には使用しないで下さい。
- ☆ 製品の安全性については、十分に配慮していますが、この説明書の警告、注意をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。また、電源機器の取扱説明書もよくお読み下さい。  
ADV50SOB をご使用の際には、ADS（自動運転配電箱）の取扱説明書も合せてお読み下さい。
- ☆ 下記の表示は、万一にも他人や自分に障害や損害を与えることのないように、この製品を使用して頂く為の警告表示・注意表示です。



### 警告

(WARNING)

【警告】は、死亡又は重傷を負う可能性のある危険な状況を示す表示です。



### 注意

(CAUTION)

【注意】は、軽傷または中程度の障害を負う可能性のある危険な状況を示す表示です。

## **警 告**

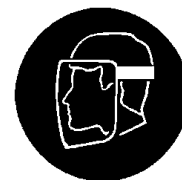
(死亡事故を受けない為に)

- ⚠ この製品を、商用電源では絶対に使用しないで下さい。モータが焼損します。焼損により絶縁物が破壊され感電する恐れがあります。
- ⚠ この製品の電源機器（インバータ・コンバータ）は、感電防止用漏電遮断器を設備していない電源では使用しないで下さい。

## **注 意**

(障害や損害を受けない為に)

- ⚠ コンクリートバイブレータを取り扱う事業者は、厚生労働省 基発0710第2号「チェーンソー以外の振動工具の取扱い業務に係る振動障害予防対策指針（別紙）」に基づき、バイブレータの3軸合成値（手元振動の強さ）より、作業時間を管理し作業者の振動障害予防に努めなければなりません。  
「チェーンソー以外の振動工具の取扱い業務に係る振動障害予防対策指針（別紙）」の詳細は安全衛生情報センターのホームページより入手できます。  
また、エクセンホームページでも情報を掲載しています。
- ⚠ CSV500B をご使用の際には、絶対に空中での運転はしないで下さい。  
又、ADV50SOB をご使用の際にも、ADS（自動運転配電箱）を接続せずに、空中で運転する事は絶対にしないで下さい。  
空中で運転させると、振動体は数分で100℃以上になります。触ると火傷します。
- ⚠ 振動体は、運転すると発熱します。使用した後に誤って触れないようにして下さい。  
火傷する恐れがあります。
- ⚠ 足元や浅い場所を打設する時には、コンクリートが飛び散ります。顔面保護具（保護眼鏡・マスク）を着けて目や口などを保護して下さい。  
騒音の大きい作業では、防音保護具を着用して下さい。
- ⚠ ホースやケーブルを持って振動体を振り回さないで下さい。  
周りの人や物に障害や損害を与える恐れがあります。



顔面保護具着用 防音保護具着用

# ○ ま え が き

この度は、かる楽バイブレータをお買上げ頂き誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を読んで下さい。

この製品の性能を十分に理解して、適切な取扱いと点検整備を行ない、いつまでも安全に効率よく使用されるようお願い致します。尚、この取扱説明書はお手元に大切に保管して下さい。

# も く じ

☆ 安全情報	1
⚠ 警告	2
⚠ 注意	2
○ ま え が き	3
○ 安 全	4
⚠ 注意	
作業上身を守る為に	4
⚠ 注意	
末永く使用して頂く為に	5
○ 延長ケーブルの選定	7
○ 使用可能台数	8
○ システム構成 CSV50OB ご使用の場合	9
ADV50SOB ご使用の場合	10
○ 各部の名称	11
○ 操作上の説明 CSV50OB ご使用の場合	11
ADV50SOB ご使用の場合	12
○ 自動運転時の動作確認 ADV50SOB ご使用の場合	13
○ 使用後の清掃	14
○ 点 検	15
○ 消耗部品の交換時期	16
○ 故障診断	16
○ 仕 様・製品寸法	17
○ エクセン指定サービス工場	18
○ S I 単位換算表	18

## ○ 安全



(作業上身を守る為に)

- 作業は、安全帽・防振手袋・安全靴・防音保護具・顔面保護具（保護眼鏡・マスク）及び安全ベルトを着けて、安全な装備で行なって下さい。



安全帽着用



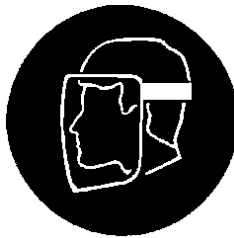
防振手袋着用



安全靴着用



防音保護具着用




顔面保護具着用



安全ベルト着用

- この製品は、ホースやケーブルがついた長い物です。  
作業中や移動する時に鉄筋に引っ掛けたり、物が乗ったりして自由を奪われて、つまずいたり、踏み外したりして、怪我をする恐れがあります。  
ホースとケーブルの取り回しには十分気を付けて下さい。
- 作業場は、鉄筋などで足場が悪い所では、必ず歩み板を敷いて、足場を固めてから作業して下さい。
- 機械が突然停止した時は必ずスイッチを“OFF”にしたのち、プラグを電源器機から抜いて下さい。ケーブルが焼損したり、電源機器が故障する恐れがあります。

 **注 意**

(未永く使用して頂く為に)

- この製品の振動体は、コンクリートに挿入することにより冷却しています。コンクリートの外（空中）で運転しないで下さい。モーターが焼損する恐れがあります。



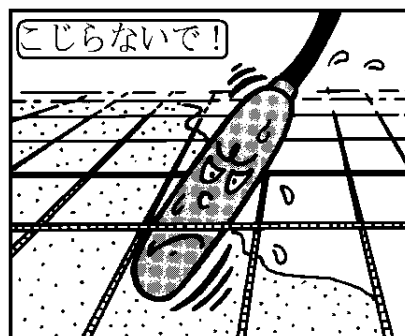
- ケーブルやホースの上に、重い物を乗せたり落としたりしないで下さい。ケーブルが断線して故障する恐れがあります。



- バイブレーターの“ON・OFF”は、振動体がコンクリートに挿入されていない状態で行なって下さい。コンクリートに挿入した状態で“OFF”にすると、振動体が抜けなくなる事があります。



- 振動体で鉄筋や型枠などをこじらないで下さい。  
振動体が摩耗したり、モータが焼損する恐れがあります。



- この製品の振動体をコンクリートや鉄板などの固い物の上で、運転しないで下さい。  
ベアリングが破損したり、ロータが折損する恐れがあります。
- 打設や移動の時に、ケーブルを引張ったり吊り下げたりしないで下さい。  
プラグが抜けたり、ケーブルが断線して故障する恐れがあります。
- **ADV50SOB** ご使用の際、振動体表面に錆が出ていた場合、グラインダーに取付けた  
カップブラシ等で振動体表面に浮いた錆を落としてからご使用下さい。  
自動運転の感知可能な範囲が狭まる場合があります。
- **ADV50SOB** ご使用の際、使用後は振動体に付着したセメントやモルタル等の汚れを  
洗い流して下さい。振動体が汚れていた場合、自動運転の感知可能な範囲が狭まる場  
合があります。
- プラグの端子は、接触不良にならないように汚れ・錆はきれいに落としてから  
コンセントに、確実に差し込んで下さい。  
プラグの接触不良は、モータが焼損する主な原因の一つです。
- 電源機器から離れた所で打設する場合は、ケーブルを延長して下さい。  
延長ケーブルのサイズと使用限界長さは、表-1（7ページ）を参照下さい。
- この製品を使用する場合、電源機器（インバータ・コンバータ・発電機）の容量  
により、それぞれ使用可能台数は異なります。  
過負荷にならないよう表-3（8ページ）を参照下さい。

## ○ 延長ケーブルの選定 CSV500B ご使用の場合

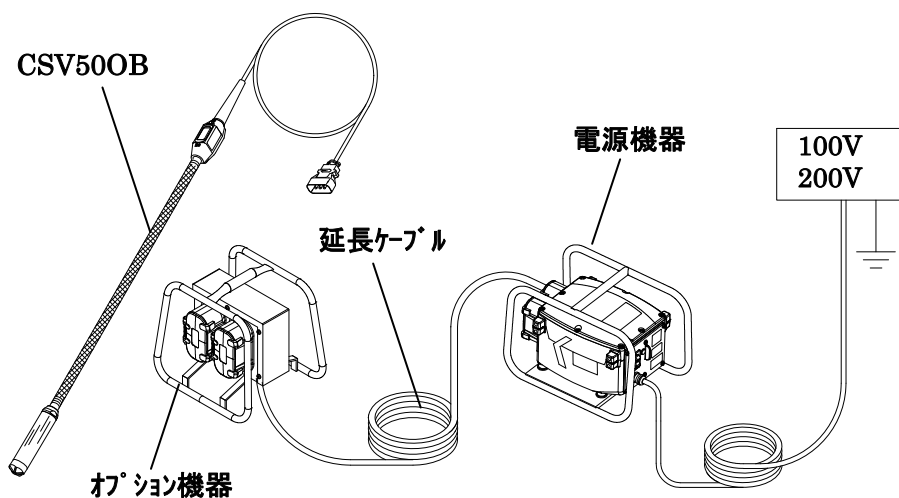


表-1

単位：m

型式	ケーブルサイズ				
	3.5mm <sup>2</sup>	5.5mm <sup>2</sup>	8.0mm <sup>2</sup>	14mm <sup>2</sup>	22mm <sup>2</sup>
CSV500B	60	100	140	250	400

## ○ 延長ケーブルの選定 ADV50SOB ご使用の場合

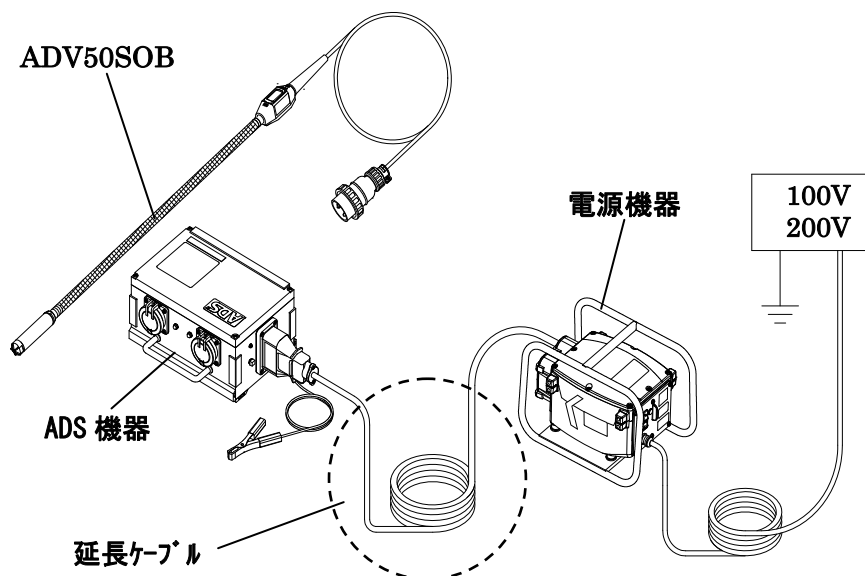


表-2

名称	型式	品目コード
コードリール	ER8030	000514000
中間コード	C5520M	000879000
中間コード	C8020M	000881000



## ○ 使用可能台数

表-3

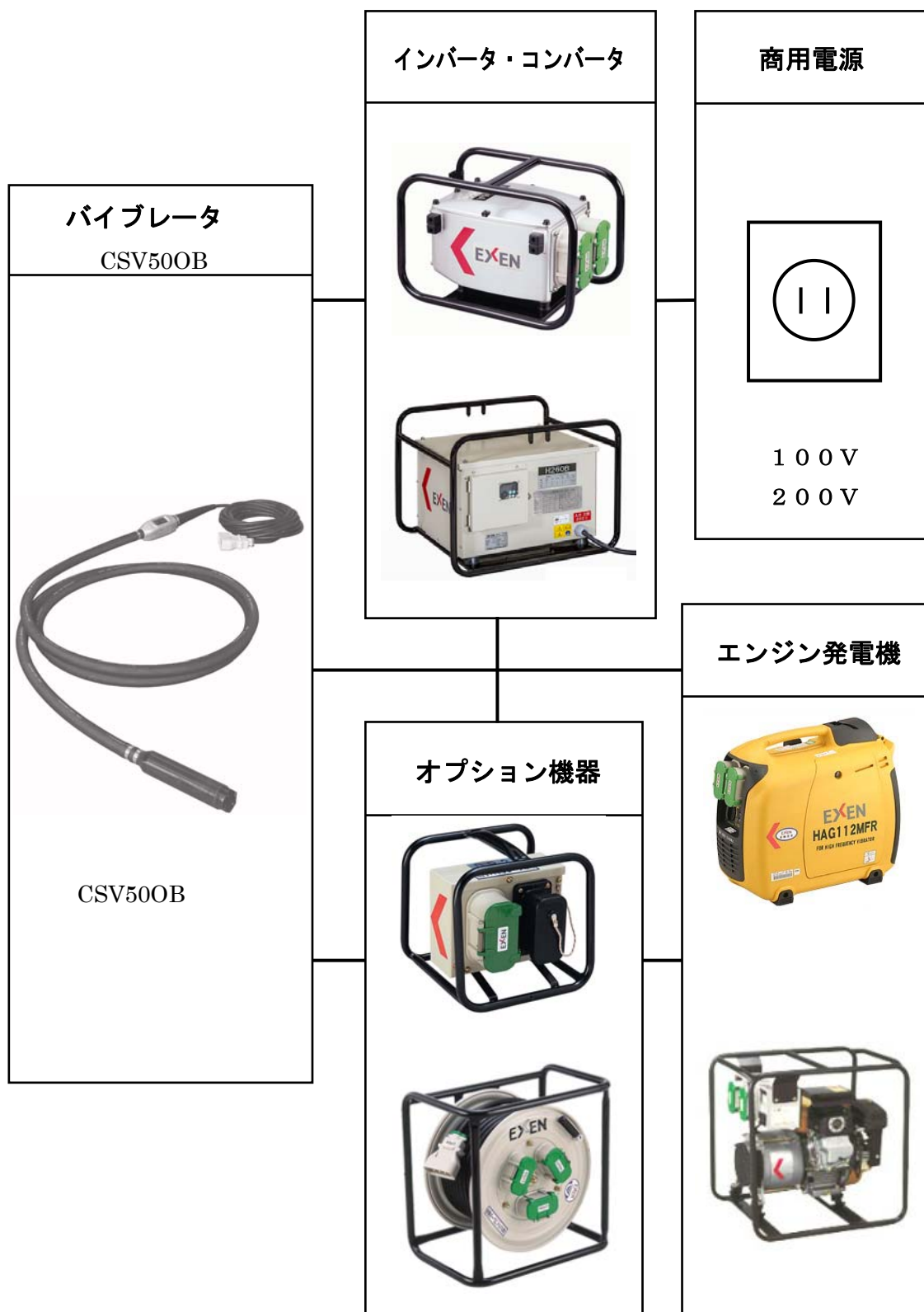
型式		CSV500B	ADV50SOB (ADS 未使用時)	ADV50SOB (ADS 使用時)
インバータ	HC111B(RC)	1	1	1
	HC113B	2	2	1
	HC116B	3	3	2
	HC230A	6(5)	6(5)	4
	H260B	13(12)	13(12)	11
発電機	HAG112MFR	2	2	1
	HAG122MF	4	4	3
	HAG136MF	7(6)	7(6)	5
	HAG122MH	4	4	3
	HAG134MHA	7(6)	7(6)	5

※ 表中 ( ) 内の数字は、バイブレータが同時に連続過負荷の状態、使用された場合を想定した使用可能台数です。

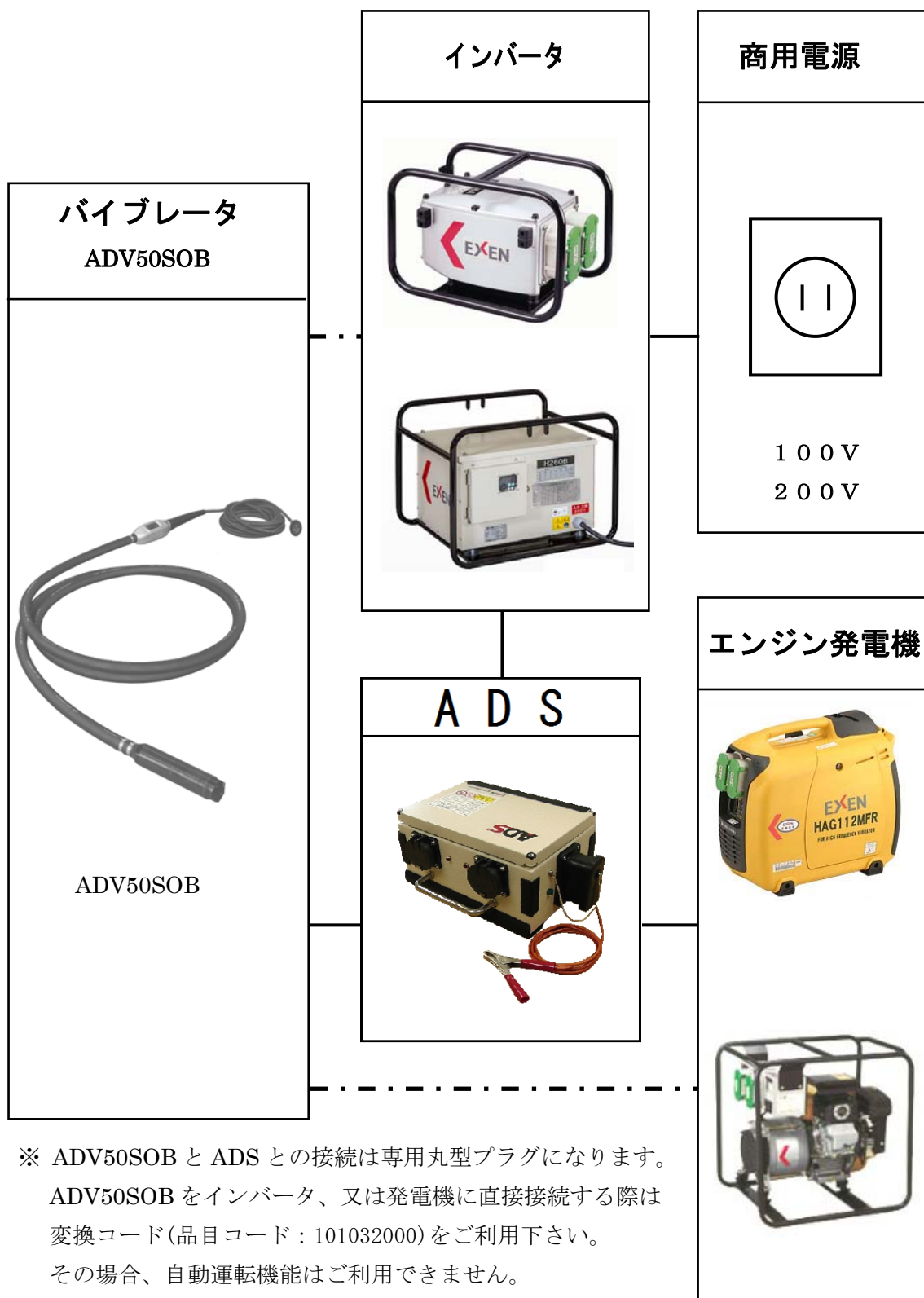
※ ADV50SOB を ADS に接続してご使用の際は、ADS 本体がインバータ、または発電機の出力の一部を電源として利用している為、CSV500B や ADS 未使用時の ADV50SOB の使用可能本数よりも使用可能本数は少なくなります。

ADS をご使用になる際、上表にない電源機器をお使いの場合は、電源機器の使用可能本数の“-1”本を目安にバイブレータをご使用下さい。

## ○ システム構成 CSV500B ご使用の場合

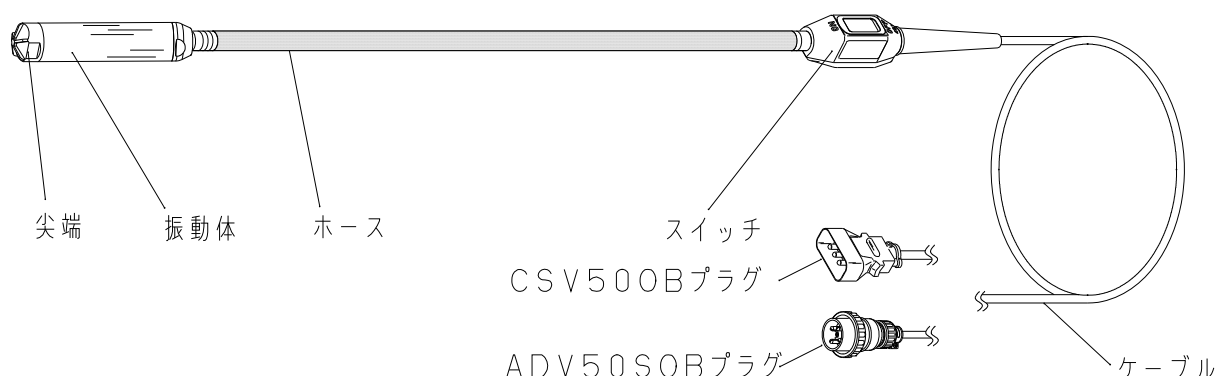


## ○ システム構成 ADV50SOB ご使用の場合



## ○ 各部の名称

### ■ CSV500B / ADV50SOB



## ○ 操作上の説明 CSV500B ご使用の場合

○ バイブレータの操作は、「振動体を操作する人」と「スイッチの“入切”を操作する人」の二人で操作すると、安全で楽に作業できます。

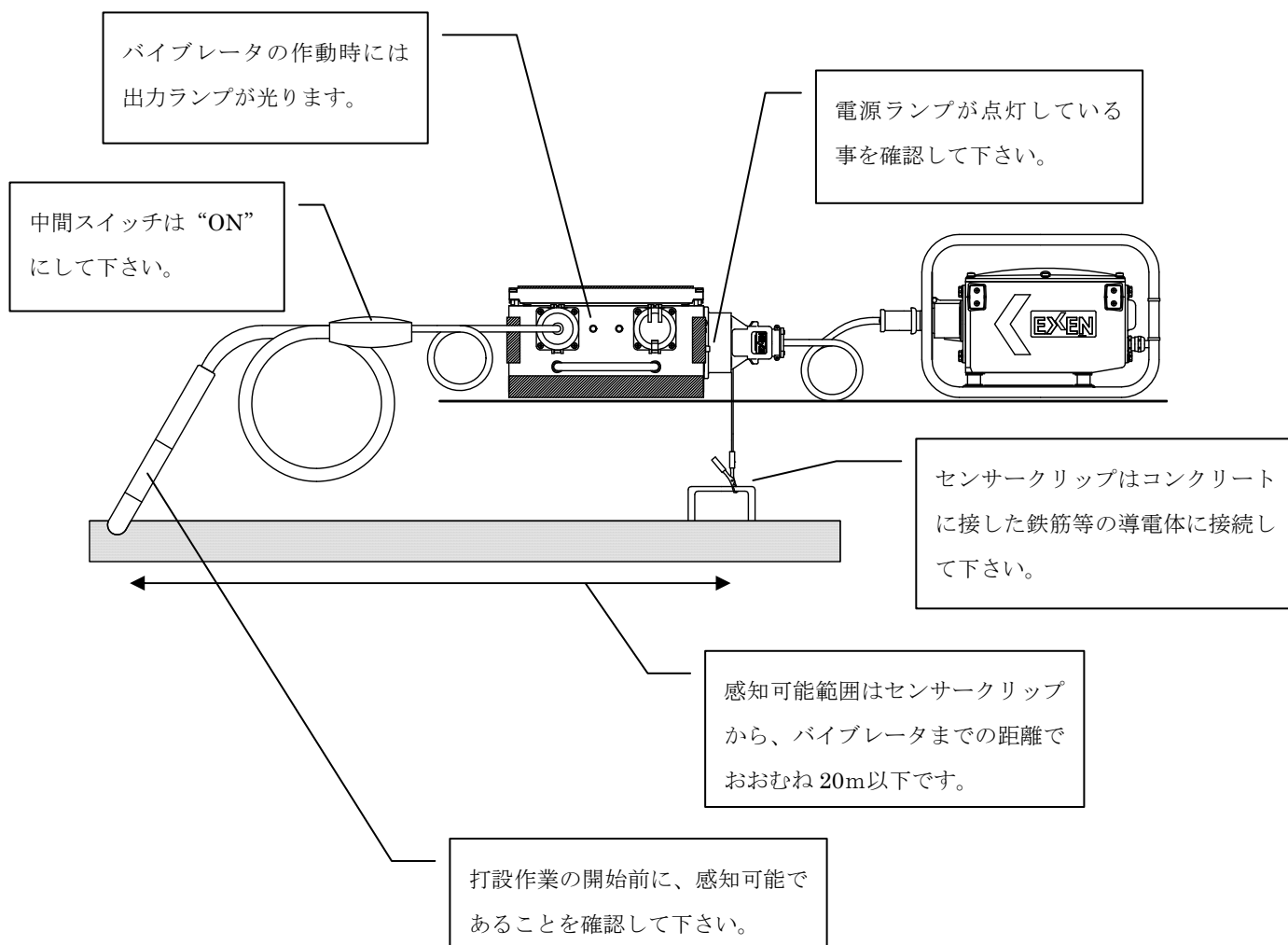
- (1) バイブレータのスイッチが“OFF”である事を確認します。
- (2) 電源機器を起動させます。  
※ 電源機器の操作方法は、電源機器の取扱説明書を参照して下さい。
- (3) バイブレータのプラグを電源機器のコンセントに差し込みます。
- (4) コンセントケース蓋の爪がプラグに確実に掛かって、抜けないことを確認します。
- (5) バイブレータのホースを持って、振動体を吊り下げて支えます。
- (6) 準備ができれば、(スイッチを操作する人に合図して) バイブレータのスイッチを“ON”にします。  
※ バイブレータのホースは、手元振動の弱い所を持つようにして下さい。
- (7) バイブレータは、締め固め有効範囲のピッチで垂直に、コンクリートに挿入します。  
※ バイブレータの締め固め有効範囲は振動部直径の約10倍とみて下さい。
- (8) コンクリートは、バイブレータを挿入して沈下が止まり、表面にモルタルが均一に浮き上がり、光沢を帯びてきたら次の場所に差し替えます。  
※ 一ヶ所に振動を掛け過ぎると、コンクリート分離の原因になります。  
※ 粗骨材は、平均的に埋めて下さい。打設中の分離が起きた場合は、粗骨材を平均的に埋め直した後に再度打設して下さい。  
※ 斜面や法面などで打設する場合は、モルタルの分離を防ぐ為、下方から行なって下さい。
- (9) バイブレータを引き上げる時は、穴が残らないようにゆっくり引き上げます。
- (10) 打設が終了したら(スイッチを操作する人に合図して) バイブレータのスイッチを“OFF”にします。
- (11) 電源機器からプラグを抜きます。  
※ コンセントケースの蓋を起して、蓋の爪の掛かりをプラグから外して引抜きます。
- (12) 電源機器を停止させます。

## ○ 操作上の説明 ADV50SOB ご使用の場合

⚠ この製品を接続する場合は、必ず電源機器の入力電源が“OFF”である事を確認して下さい。電源機器が運転中に接続作業を行なうと、感電する恐れがあります。

1. 中間コードを使用して、電源機器の出力コンセントに片方を接続し、もう一方をADS（自動運転配電箱）の入力コネクタに接続します。
2. ADV型バイブレータのスイッチを“OFF”にしてから、プラグをADS（自動運転配電箱）の出力コンセントに接続します。
3. センサークリップを打設するコンクリートに接した鉄筋等の導電体に接続します。
4. 電源機器、ADS（自動運転配電箱）を起動させます。
5. 起動後、ADS（自動運転配電箱）の入力コンセント隣の電源ランプ（緑色）が点灯している事を確認します。
6. ADV型バイブレータのスイッチを“ON”に入れます。
7. センサークリップを取り付けた導電体にバイブレータを当て、バイブレータが動作する事を確認します。
8. この状態でバイブレータをコンクリートへ挿入すると自動的にバイブレータが動作し、また、コンクリートから引き抜くと動作が停止します。
  - ※ バイブレータが動作中は、出力コンセント横の出力ランプ（赤色）が点灯します。
  - ※ 自動運転が感知可能な距離は、コンクリートの状態や本製品の設置状況によって異なりますが、センサークリップ取り付け箇所を中心に、おおむね20m以下の範囲です。
9. バイブレータは、締め固め有効範囲のピッチで垂直に、コンクリートに挿入します。
  - ※ バイブレータの締め固め有効範囲は振動部直径の約10倍とみて下さい。
10. 打設が終了したら、バイブレータのスイッチを“OFF”にしてから、プラグをADS（自動運転配電箱）の出力コンセントから取り外します。
11. 電源機器を停止させます。

## ○ 自動運転時の動作確認 ADV50SOB ご使用の場合



※ 感知可能な範囲はコンクリートの状態や鉄筋の配置により大きく変化しますので、設置後に必ず動作の確認を行って下さい。

## ○ 使用後の清掃

○ 使用後は、きれいに清掃してきれいに束ねて下さい。

- 1 振動体・ホース・スイッチケースおよびケーブルに付いたコンクリートは、固まる前に落として下さい。
- 2 電源機器のコンセントやバイブレータのプラグについた埃やコンクリートは、きれいに落として下さい。
- 3 ホースやケーブルは、直径50cm位に丸めて2～3ヶ所縛り、丸めた輪に腕を通して、肩に掛けて運んで下さい。両手が自由になり、持ち運び易くなります。

## ○ 点 検

○ 現場へ搬入する前と使用後は、必ず次の項目を点検して下さい。使用中のトラブルを出来るだけ少なくする為です。

1. 振動体に摩耗・亀裂および緩みなどは、発生していないか？
2. ホースに摩耗・破れおよび傷などは発生していないか？
3. スイッチケースに変形やゴム類の破けなどはないか？
4. ケーブルに摩耗や亀裂などは、発生していないか？
5. プラグの端子に、汚れや錆などは、発生していないか？
6. スイッチは、確実に“ON・OFF”できるか？  
又、自動運転は正常に行えるか？ ※：ADV50SOBの場合
7. 絶縁抵抗値は、正常か？（DC 500V，20MΩ以上）
8. 運転音は、正常か？（一定の運転音が正常）



## ○ 消耗部品の交換時期

- 消耗部品の交換は次の項目を参考に行なって下さい。

消耗部品	視覚・聴覚による交換時期の判断	交換時期・時間 (目安)
振動体・尖端	摩耗場合で判断 (視覚)	200～300時間
ベアリング	運転時の音で判断 (聴覚)	300～400時間
ホース	摩耗や傷の具合で判断 (視覚)	発見次第

※ 消耗部品の交換時期は、目安時間です。使用状況により異なりますので、早めの交換をお勧めします。

※ 修理やメンテナンスをする場合は、最寄りの支店・営業所あるいは、当社指定のサービス工場にお申しつけ下さい。

## ○ 故障診断

現象	症状	原因	処置
運転できる	異音がする (金属音など)	ベアリング異常 (ゴロツキ・摩耗)	ベアリング交換
	振動が弱い	ステータ異常	ステータ交換
運転できない	うなり音がする	欠相	修理
		ステータ異常	ステータ交換
		ベアリング異常 (ロック・破損)	ベアリング交換
	全く音がしない	ステータ焼損	ステータ交換
		ケーブル断線	ケーブルの修理又は交換
センサ線の断線 ※		センサ線の修理又は交換	

※：ADV50SOBの場合

## ○ 仕様・製品寸法

### ■仕様

型式	出力 (W)	電圧 (V)	電流 (A)	周波数 (Hz)	振動数 (Hz)	全長 (mm)	振動部 (径×長 mm)	外部ホース (径×長 mm)	質量 (kg)
CSV50OB	250	48	5.5	200	200	6,398	52×244	33×6,000	11.9
ADV50SOB				/240	/240	6,398	52×244		12.5

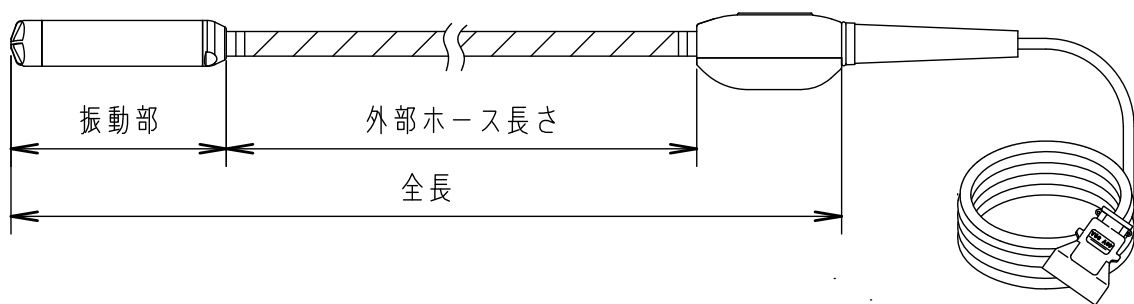
※ 質量には外部コード（1.5m）も含まれています。

### ■3軸合成値

型式	3軸合成値 (m/s <sup>2</sup> )
CSV50OB	3.9
ADV50SOB	

※ 3軸合成値は、JIS B 7761-1に準拠した測定器を使用し、  
JIS B 7761-2に基づく方法にて測定した値です。

### ■製品寸法図



## ○ エクセン指定サービス工場

○ 共成電機工業(株)	〒060-0041	札幌市中央区大通東5-4	TEL 011-241-8604 FAX 011-241-8605
○ 三協電機	〒983-0025	仙台市宮城野区福田町南 1-4-22	TEL 022-258-2952 FAX 022-258-2952
○ 鍋谷電機工業(株)	〒950-0922	新潟市中央区山二ツ 3-30-20	TEL 025-286-0022 FAX 025-286-0023
○ (株)岡田電業社	〒334-0076	川口市本蓮 1-2-18	TEL 048-229-2408 FAX 048-229-2409
○ (有)テクノナカコ	〒453-0855	名古屋市中央区烏森町 7-321-2	TEL 052-482-9779 FAX 052-471-5697
○ 大同機材(有)	〒577-0827	東大阪市衣摺3-11-6	TEL 06-6729-5710 FAX 06-6729-2950
○ 愛神電機(株)	〒761-8083	高松市三名町字大下 739-7	TEL 087-866-3411 FAX 087-866-3412
○ 三和機電工業(株)	〒813-0034	福岡市東区多の津 5-13-6	TEL 092-621-7130 FAX 092-621-7135

## ○ S I 単位換算表

項目	SI単位	従来単位	換算率1 (SI単位→従来単位)	換算率2 (従来単位→SI単位)
振動数・打撃数	Hz	v.p.m	1Hz = 60v.p.m	1v.p.m = 1/60Hz
回転数	min <sup>-1</sup>	r.p.m	1min <sup>-1</sup> = 1r.p.m	1r.p.m = 1min <sup>-1</sup>
遠心力・起振力	kN	kgf	1kN = 101.97kgf	1kgf = 0.00980665kN
トルク	N・cm	kgf・cm	1N・cm = 0.10197kgf・cm	1kgf・cm = 9.80665N・cm
トルク・打撃エネルギー	N・m	kgf・m	1N・m = 0.10197kgf・m	1kgf・m = 9.80665N・m
衝撃力	kg・m/s	kg・m/sec	1kg・m/s = 1kg・m/sec	1kg・m/sec = 1kg・m/s
圧力	MPa	kgf/cm <sup>2</sup>	1MPa = 10.197kgf/cm <sup>2</sup>	1kgf/cm <sup>2</sup> = 0.0980665MPa
真空圧力	kPa	mmHg	1kPa = 7.5mmHg	1mmHg = 0.133322kPa
真空圧力	kPa	Torr	1kPa = 7.5Torr	1Torr = 0.133322kPa
秒速	m/s	m/sec	1m/s = 1m/sec	1m/sec = 1m/s
時間(秒)	s	sec	1s = 1sec	1sec = 1s
容量・体積	L	l	1L = 1l	1l = 1L
流量・消費量	L/h	cc/h	1L/h = 1000cc/h	1cc/h = 0.001L/h
流量・消費量	L/h	l/h	1L/h = 1l/h	1l/h = 1L/h
流量・揚量	L/min	l/min	1L/min = 1l/min	1l/min = 1L/min
容量/回	L/回(ANR)	NI/回	1L/回(ANR) = 1NI/回	1NI/回 = 1L/回(ANR)
容量	L	cc	1L = 1000cc	1cc = 0.001L
馬力・出力	kW	PS	1kW = 1.3596PS	1PS = 0.7355kW
加速度	m/s <sup>2</sup>	G	1m/s <sup>2</sup> = 0.10197G	1G = 9.80665m/s <sup>2</sup>

# EXEN 振動応用技術で、世界をひらく エクセン株式会社

本社	〒105-0013	東京都港区浜松町 1-17-13	TEL 03-3434-8455	FAX 03-3434-1658
札幌営業所	〒002-8005	札幌市北区太平5条 2-5-35	TEL 011-772-0861	FAX 011-772-0903
仙台営業所	〒983-0025	仙台市宮城野区福田町南 1-4-22	TEL 022-259-0531	FAX 022-259-0568
東京建機支店	〒105-0013	東京都港区浜松町 1-17-13	TEL 03-3434-8451	FAX 03-3432-7709
東京産機支店	〒105-0013	東京都港区浜松町 1-17-13	TEL 03-3434-8453	FAX 03-3432-7709
名古屋営業所	〒465-0057	名古屋市名東区陸前町 1807	TEL 052-703-9977	FAX 052-703-1412
大阪支店	〒560-0085	豊中市上新田 4-6-8	TEL 06-6831-3008	FAX 06-6871-4282
広島営業所	〒733-0841	広島市西区井口明神 3-2-6	TEL 082-278-6868	FAX 082-278-6871
九州支店	〒811-1314	福岡市南区的場 2-6-15	TEL 092-586-1200	FAX 092-586-1099
海外営業部	〒105-0013	東京都港区浜松町 1-17-13	TEL 03-3434-8452	FAX 03-3434-8368
草加工場	〒340-0003	草加市稻荷 5-26-1	TEL 048-931-1111	FAX 048-935-4473

URL <http://www.exen.co.jp/>